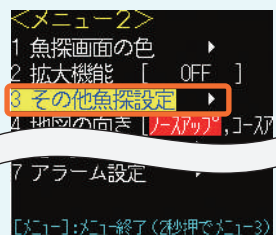


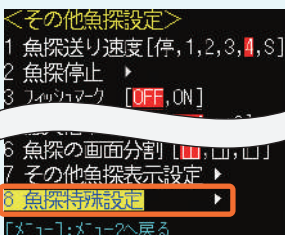
3.周波数を切り替えて混信を軽減しよう

ドーム船など釣り人同士が比較的近い場所で魚探を使用する場合に“混信”が発生することがあります。周波数を切り替えることで混信を軽減することができます。

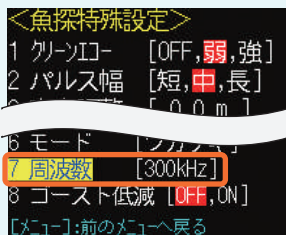
◎周波数の切り替え方法



①を2回押します。
 <メニュー2>が表示されるので
 [3.その他魚探設定]で②を
 押します。

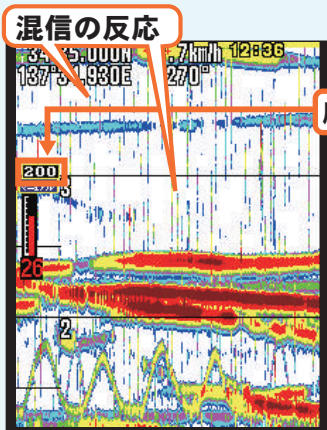


<その他魚探設定>の
 [8.魚探特殊設定]で
 ③を押します。

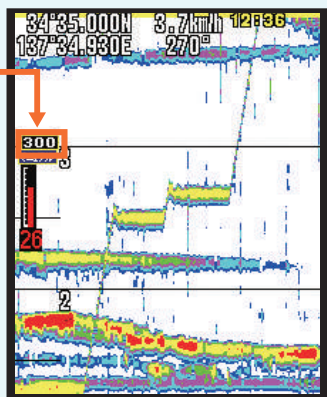


<魚探特殊設定>の[7.周波数]で
 [150kHz/175kHz/200kHz/225kHz/
 250kHz/275kHz/300kHz]から
 周波数を選択し④を3回押すと
 設定完了です。(メニュー画面が閉じます)

*周波数の切り替えは魚探モードが【ワカサギ】時に設定できます。ワカサギモードの設定方法は表面をご覧ください。
 *TD08以外の振動子を接続している場合、周波数は切り替えしないでください。本体や振動子の故障の原因になります。



周波数切り替え前(混信)



周波数切り替え後(混信の軽減)

混信が発生すると左の画像のように魚探に雨が降ったような反応が出ます。
 混信するとワカサギやおもりの反応との判別がしづらくなります。

周波数の切り替えは上記メニュー操作の他、⑤⑥キーを押すことで
 “150kHz ↔ 175kHz ↔ 200kHz ↔ 225kHz ↔ 250kHz ↔ 275kHz ↔ 300kHz ↔ 150kHz”
 と切り替えることができます。

*⑤⑥キーでの切り替えは魚探のみの画面の時に使用できます。

ワンタッチ切り替え!



ポイント

混信はお互いの魚探の周波数が近いことで発生するため、200kHz以外の設定でも混信する場合があります。フィールドの状況に応じて周波数を切り替えて使用しましょう。

ワカサギ釣り おすすめセッティング

211012①

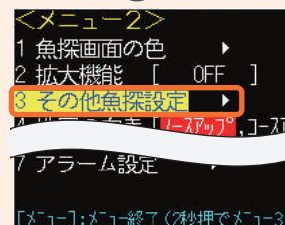
～『ワカサギモード』でかんたんに湖の底を探って釣果アップ!～

ワカサギモードを使えば湖の底とワカサギの群れやおもりの反応との位置関係がより分かりやすくなります。またドーム船など釣り人同士が近い場所で魚探を使うと発生する『混信』を軽減できる機能も備わっています。本紙ではワカサギモードの設定方法とおすすめの使い方を紹介しますので、魚探を最適なセッティングにし釣果につなげましょう!

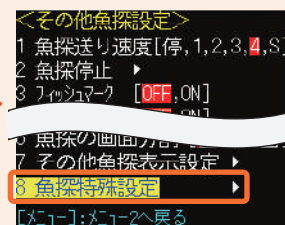
1.ワカサギモードをONにしよう

◎ワカサギモードの設定方法

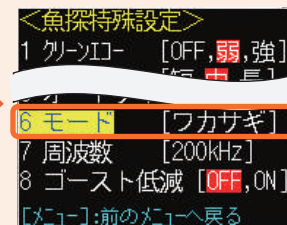
はじめに④を2回押します。<メニュー2>が表示されるので、以下の手順で設定しましょう。



[3.その他魚探設定]で
 ②を押します。



<その他魚探設定>の
 [8.魚探特殊設定]で
 ③を押します。



<魚探特殊設定>の[6.モード]で
 【ワカサギ】を選択し④を
 3回押すと 設定完了です。
 (メニュー画面が閉じます)

◎ワカサギモード“ON”でできること

- ワカサギ釣りに適した「拡大機能」「拡大幅」「逆スケール」が使用できるようになります。
- 「魚探の深度・感度機能」が“オート”の場合は“マニュアル(手動)”に切り替わります。
 *ワカサギモードを“OFF”にすると、上記で設定したメニューが“ON”にする以前の設定を保持します。
- 「周波数」を“150kHz/175kHz/200kHz/225kHz/250kHz/275kHz/300kHz”から選択できます。
 *TD08以外の振動子を接続している場合、周波数は切り替えしないでください。本体や振動子の故障の原因になります。

- 決定キーで「拡大幅」の切り替え、
 ⑤⑥キーで「周波数」の切り替え ができるようになります。 >>>



*プロッター(地図)画面が表示されている時は切り替えできません。

◎以下の場合、ワカサギモードを“OFF”にしてお使いください。

- ・湖の底の起伏が一定でない場合(ボートで移動中など)
- ・水深が40m以上の場合(深度レンジは0~40mです)
- ・拡大機能で「自動拡大」と「海底固定拡大」を使いたい場合

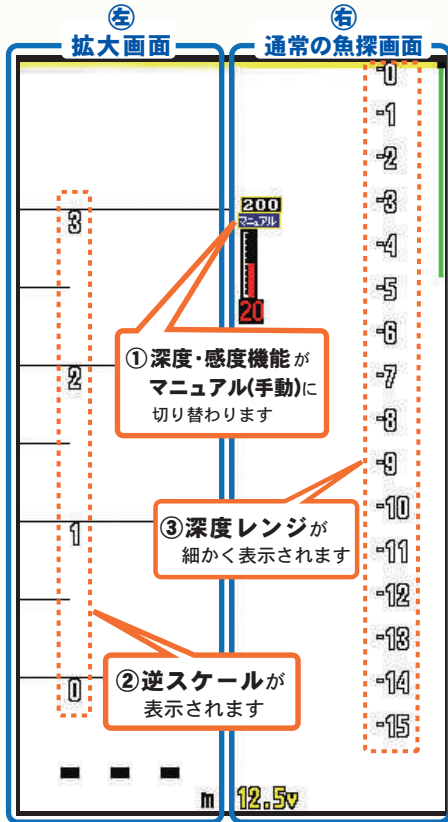
中面の【2.フィールドでセッティングしよう】に続きます。

2.フィールドでセッティングしよう

振動子を水中に落としてフィールドに合わせたセッティングをしましょう。

ワカサギモード“ON”時の画面構成

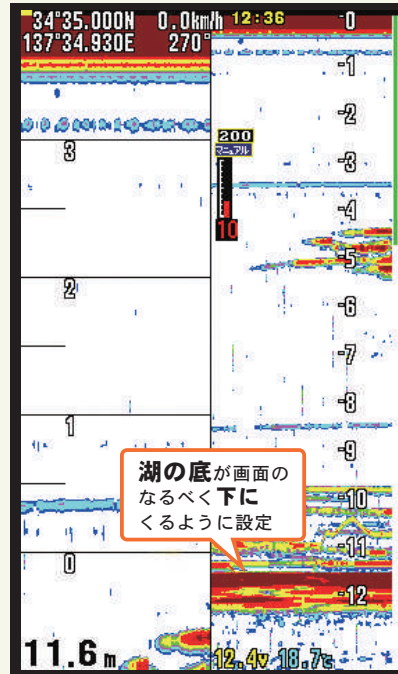
* 通常の魚探画面(画面⑥)の一部を拡大した映像が拡大画面(画面⑤)に表示されます。



- 魚探の深度・感度機能が“マニュアル(手動)”に切り替わります。感度・深度の調整を手動で行うことでより細かな設定ができます。詳細は **ステップ1**・**ステップ3** をご覧ください。
* オート(自動)で使いたい方は **F1** キーで切り替えできます。
- 拡大画面上に逆スケールが表示されます。湖の底を0mとしたスケールを表示します。詳細は **ステップ2** をご覧ください。
- 通常の魚探画面上に深度レンジが細かいスケールで表示され、反応のあるタナを見分けやすくなります。

ステップ1

深度を設定する。



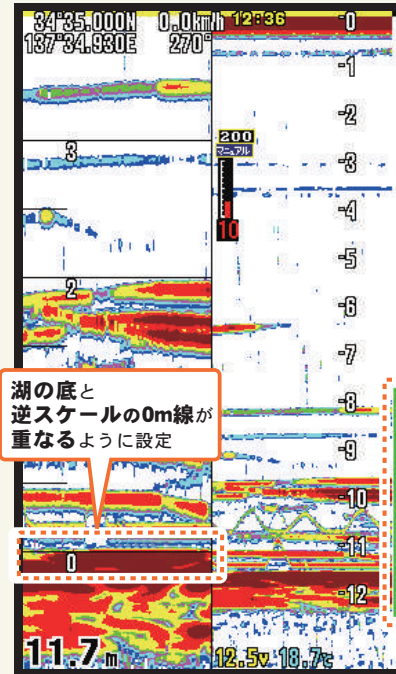
浅 深 キーを押して通常の魚探画面(画面⑥)で湖の底が画面のなるべく下にくるように設定しましょう。

ポイント

魚探のセッティング時は魚探のみの画面で行うのがお勧めです。反応や深度レンジも大きく確認ができますしワンタッチキーの操作確認もできます。(**画面** キーで切り替えできます。)

ステップ2

拡大範囲を設定する。



上 **下** キーを押して拡大範囲を設定します。拡大画面(画面⑤)を見ながら拡大範囲を調整し、湖の底と逆スケールの0m線が重なるように設定しましょう。
* 拡大範囲の設定は、魚探のみの画面で行ってください。

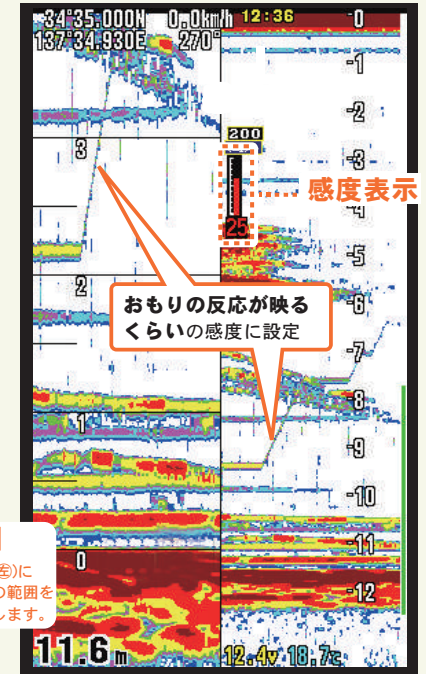
ポイント

拡大幅は [2m, 3m, 4m] より選択します。拡大幅はメニュー内もしくは **決定** キーでも切り替えることができ、押すたびに2m→3m→4m→2mと切り替わります。

* **決定** キーでの切り替えは魚探のみの画面の時に使用できます。使用する仕掛けの長さや狙うタナに合わせて拡大幅を選びましょう。

ステップ3

感度を設定する。



高 低 キーを押して感度を設定します。感度が低すぎるとおもりや魚の反応をとらえにくくなり、逆に高すぎると不要な反応まで映って判別しづらくなります。目的の深さ(ワカサギのタナ付近)でおもりの反応が映るくらいの感度に設定しましょう。

ポイント

水深や水のごりによっても最適な感度は変わるので、こまめに調整しましょう。

これでセッティング完了です。反応を見定め、釣果アップを目指しましょう!

→裏面では **[3.周波数を切り替えて混信を軽減しよう]** を紹介します。